

shun 旬 Ka 花 ho 報

創刊号

発行
群馬県立女子大学
同窓会事務局
371-1193 佐波郡玉村町上之手1395-1
TEL: 0270-65-8511
(代表)保健体育準備室
URL: http://www.gpwu.ac.jp/

学長インタビュー



去る三月二十五日、
新学長・富岡賢治氏
にうかがいました。

就任以来、感じる事は学生達が、とても真面目だと言う事。それは勉強も生活態度もそう。しかし、それだけでいいのだろうか。短い四年間の大学生活、惜しいと思う。一言で言えば元気が足りない、活気がほしい。もっともつと我が女子大ならではの彩りがほしい。これは女子大を見た皆も同じ印象を口にする。「文学部」としてある以上、地味でありまじめさが美德、といった風もあるけれどね。で、新たに平成十七年四月から国際コミュニケーション学部を創設したいと考え準備を進めている。徹底的に実践的な英語学習と国際経済などの社会科学系の学習をあわせて行うユニークな学部づくりをしたいと考えている。定員は六十人程度と少人数による英語漬けの教育を行う予定だ。ここでは留学希望の学生には門戸を開き、その経費も二分の一ぐらいは助成し、多くの留学生を送り出したと考えている。この留学制度はもう今年から始動する。こんな手厚い助成制度をもつ大学は例がない。ここから勉強の幅を広げ、自由に学べる場として大きく発展して欲しい。



更にもう少し社会参加、社会との接点をきわめてほしい。今は静かなキャンパスライフといった感じもあるが、例えば群馬はいろいろなボランティアなど非常に積極的に盛んな県である。このことをふまえ、実際、自ら体験し、ボランティアにたずさわることによって目が向き、興味、関心もわく。得てして大学生生活は社会と切り離される事が多い。そんな中、自ら叱咤激励し、社会とふれあっている。学内にボランティア活動相談・受け付けコーナーを設け、実際ボランティアで活躍している方々に来てもらい、カリキュラムに、ボランティアやNPOに関する授業科目を設け、ボランティア活動を単位として認定する。これも今年から始まる。

一般県民向けの英語市民講座——新聞紙上等で目にする機会があったでしょう。こうした実践も地域への貢献として大いに大学の目指す所である。最後に一つ、これは同窓生へのメッセージとしても受け取ってほしいのだが、学生の職業意識——

否が応でもこの四年間に自分の適正を決定付けなければならぬ。——その時、例えば、キャリアを重ねた先輩として大学に足を運び、アドバイザーとしてOGが活躍する。こうしたOGを間近にし直接アドバイスを受けることで「私でもなれるだろうか。」という心配から「きつとなれる。」という確信に変わっていく事は確実で、明るく未来への希望と共に意欲・決意まで高められる。もちろん、OG限定ではなく、県内外の実業家・女性リーダーとして活躍されている方々を大学へ招き講演会やフォーラムを行い、県民にも広く開放した形で行いたい。先ほどのOGとしてのアドバイザーだが、就職ばかりでなく、いろんな意味での相談相手・精神面なども支えられるOGとしてお願いしようと思っっている。

創刊号に寄せて



同窓会長
城代富美江

皆さまいかがお過ごしでしょうか。ここに同窓会報「旬花報」創刊号をお届けできますことを大変嬉しく存じます。

「旬花報」は、同じ根っこを共有する皆様、会の活動や母校の情報などをお知らせするための手段として企画。昨年五月の幹事会において学年幹事の方々に提案し賛同を得ることができ、広報委員会を結成。この度、創刊号発行のはこびとなりました。

広報委員会の最初の仕事は、会報ネーミン



グおよびロゴデザイン募集でした。会報準備号「群馬県立女子大学同窓会だより」を発行し、ネーミングとロゴデザインを募集いたしました。同窓生からの公募によって会報ネーミングとロゴデザインを決定し、総会での公表および表彰を経て、準備を進めてまいりました。しかし、発行までの道のりは、決して容易なものではなく、山あり谷あり！このたび、皆様のもとに記念すべき創刊号をお届けできたのも、広報委員をはじめとする協力者の方々の情熱の賜であります。

ところで、最近ラジオから流れていた話の中で、耳に止まったことがあります。その内容は、ご高齢でありながらも、未だなお現役の日野原重明医師の著書を紹介するものでした。先生は人生を四季にたとえて、春は青年、夏は壮年、秋は熟年、そして冬は老年であるとしています。「人生は木々と同じ。春にはいつせいに芽を吹き、初夏には青葉となり、秋にはそれぞれに彩り、落葉する。人生の夏をどのように過ごしたかによって、秋の彩りが決まる。人生の夏を精一杯生き、素晴らしい色で彩って静かに老いを迎えよ」と理解いたしました。自らの人生も、これから何色に染めようか？太陽の光をしっかりと浴びて、今まさに模索中の日々です。

皆さま、同窓会の色どりを、生活の中に少しとり混ぜてみませんか？旬花報へ寄稿、発送作業等、何か少しでもできることお手伝いください。役員一同大歓迎お待ちしております。今後ともよろしくお願ひいたします。

開学の想い出

神山 雄一郎



一九八〇（昭和五五）
年四月、群馬県立女子大
学開学。しかし、その開

学は順当に進んだわけではない。

最初の予定は玉村での開学であったが下水
処理場と併設するという関係から地元への反対
にあい、やむなく女子大は取りあえず前橋高
校跡地（現在の生涯学習センター）に開学す
ることになった。（前橋高校は一九七九年の
六月に移転したばかりであった。）開学時の
学生定員は国文学科五〇人、英文学科五〇人、
美学美術史学科三〇人の計一三〇人である。
そして一九八〇年一月教授陣が公表された。
国文学科は主任：青木紀元先生（福井大学名
誉教授）始め八名、英文学科は主任：柴崎武
夫先生（日本女子大学文学部長）始め六名、
美学美術史学科は主任：山根有三先生（東京
大学名誉教授）始め五名、一般教育等は主
任：谷沢利彦先生（埼玉大学名誉教授）始め
一名である。この他に非常勤の先生方がお
り、学生数の割にはかなり充実した布陣であ
った。

私も、この中の一人として加わったが、一
番若く専任講師としての採用であった。教授
の中に有川美亀男先生（群馬大学名誉教授）
がいらした。有川先生のお嬢さんとは幼稚園
から中学まで一緒に、家に遊びに行つたこと
もあり、友達のお父さんと一緒に職場になる
のは少し不思議な感じがした。また、日本美
術史の山根先生と話をしたときも、自分の息
子と同じ歳だと言われた。

また、開学することになった場所、前橋高

校は私の母校である。急な変更による利用で
あり改造を最小限に留めたため、私の部屋、
体育研究室は昔の体育教官室そのままであつ
た。高校生当時、たばこを吸っているのが見つ
かりおしかりを受けた懐かしい場所であつた。

学生の活動としては、この年の二月一三、

一四日、初めて大学祭「黎明祭」出発のとき

―（松村理恵子実行委員長）が開催された。

まだ一学年のみであり校友会等の組織もない

ため、学生全員が協力して作り上げた。学生

と教職員が一緒になって夜中まで作業をして

いる光景があちこちで見られた。現同窓会長

の城代富美江氏も実行委員会書記として大活

躍であつた。ちなみに第二回は杞梓祭（山田

祐子実行委員長・現同窓会副会長）という名

で行われ、錦野祭となつたのは玉村に移転し

た第三回からである。「錦野」は玉村の古名

であり、玉村出身で当時学生委員長であつた

ドイツ語の小林先生が発案された。

時を経て、文学部のみであつた本学も、国

際コミュニケーション学部（定員六〇名）の

増設が現実味を帯びてきた。現在学生定員、

国文学科六五人、英文学科六五人、美学美術

史学科五〇人は、受験者数が多かつた時代、

一九九一年に臨時定員増をしたものである。

今度新しい学部ができた場合は、国文学科五

〇人、英文学科四〇人、美学美術史学科三〇

人になる予定である。文学部の学生定員は開

学当初に近い形に戻るが、大学全体としては

独立法人化問題も含め、まだまだ紆余曲折が

予想される。旬花報の創刊に伴い同窓会の充

実と女子大の発展を願ってやまない今日この

頃である。

誇らしさと挫折と

長沼 清太郎



昭和五十五年四月、女
子大開学と同時に赴任し
て早くも丸二三年が過ぎ

てしまった。当時小学二年だった娘も結婚し

て子供を生み、斯くいう私も、世界一可愛い

孫に目が無い好々爺？に成り果ててしまつ

た。

その二三年間の私の仕事は、自分だけがそ

う思っているだけかも知れないが、二つあつ

て、英文学科の教員としてのそれと、ソフト

テニス部のコーチ・監督としてのそれであつ

た、と思う。その二つの仕事を中心とする在

学生との交渉にはエネルギーを注いできた

が、その反動で卒業生とは出来るだけ関わり

を持たないで静観を決め込もうともしてきた

ような気がする。

だが、こちらが静観を決め込んでも、卒業

生も自ずから、そちらのことは知らないよと

でも言うかのようにそれぞれの道を切り開い

て行く。最近では、私の母校である桐生高校

に英語の教師として赴任したゼミ卒業生もい

る。大学院に進んでしまったために果たせな

かつたのだが、実は私が母校の英語教師にな

りたかつたのである。もちろんその他の分野で

も多くの卒業生が活躍しているのを耳にする。

苦い思いを抱いていることもある。一期生

の関東リーグ十六部から、卒業生が営々と八

部まで昇格させてくれたソフトテニス部が、

私の所為で今低迷しているのである。卒業生

から自然に伝わってくるエネルギーと、勿論、

孫のエネルギーも借りて、立て直さなければ、
と思っている。

「旬花報」の 創刊に寄せて

北川 和秀



同窓会報「旬花報」の
創刊、おめでとうござい
ます。素敵な会報名と口

ゴです。 「旬花報」が今後、多くの同窓生

から発行を心待ちにされるような会報になる

ことを期待しています。

発足してからまだ日の浅い同窓会ですが、

役員の方々と、そして何よりも神山先生のご

尽力によって、着々と発展しつつあります。

同窓会の主な活動は、毎年秋に開かれている

懇親会、ホームページ、そしてこの「旬花報」

ということになりましょうか。

懇親会は、毎年大いに盛り上がりつつはいま

すが、会員数に比べて出席者の数は決して多

いとは言えません。これは分らないでもあ

りません。〇〇学科の第〇期生の集まり、と

いうことであれば、集まるのは懐かしい面々

ですから、そこそこの出席率が見込めるでし

ょう。でも、三学科横断で、しかも第一期生

から最新の卒業生までということになると、

果して知つた人が何人来るやら、と思つてし

まいますよね。でも、それなら、どうか懐か

しい人達とお誘い合わせの上、来て貰いたく

思います。また、同窓生同士ですから、世代

は違つても新しい友達ができるかもしれませ

ん。多くの方々の参加を希望します。

そして、ホームページと「旬花報」。今は

まだ、同窓会事務局から同窓生へのお知らせ

という役割が多いでしょうが、これが一方通

行ではなく、双方向の情報交換、また同窓生

同士の情報交換に大きな役割を果たせたらら
いなあと思います。それを期待しています。

大学の近況

● 外国語教育研究所

平成十三年四月、所長に明石康氏を迎え、群馬県立女子大学外国語教育研究所ができました。「使える英語力の習得」の手助けを役割の一つとし様々な活動が始まっています。主な活動は次の通りです。

- ① 大学生・大学院生に対し、外国人研究員と英語でディスカッションを行う機会の提供（県カワフェ、リサーチ・ディスカッション）
- ② 広く県民に対し、英会話の場を提供する「グローバルカフェ」を県庁にて開催
- ③ ささまざまな年代層を対象にしたシンポジウム・講演会の開催
- ④ 四年回の「高校生英語スキットコンテスト」の開催
- ⑤ A-LTのための日本語講座開催

また、平成十五年四月から、県内三カ所所で「英語コミュニケーションセミナー」が始まりました。前期・後期に分け、年間で三十回のレッスンをします。受講料は無料です。ネイティブの講師によるTOEIC、TOEFL、実用英語検定などの資格取得を目指した演習です。大変好評で、第一回の募集では定員を大幅に上回る応募がありました。これから毎年開講される予定です。

● 新学部開設

平成十七年四月を目前に新たに国際コミュニケーション学部を創設する準備が進められています。実践的な英語学習と国際経済などの社会科学系の学習をあわせて行うユニークな学部づくりを目指しています。国際ビジネスコースと英語コミュニケーションコースの二コースで入学定員は六十人程度です。

新学部開設に伴い、入学定員が変わります。

文学部

国文学科……………五十人（↑現在六十五人）

英文学科……………四十人（↑現在六十五人）

美学美術史学科……………三十人（↑現在五十人）

国際コミュニケーション学部……………六十人

● 大学改革

現在、景気低迷や少子化により、大学改革が求められています。県女でもこの流れを受け、さまざまな改革が始まっています。

- ① 独立法人化
平成十六年四月から国立大学が独立法人化されることになっています。公立大学でも、時期は確定していませんが、法人化は避けられません。これからは今まで以上に大学の個性が求められ、大学経営のあり方が変わってきます。
- ② 公立三大学の連携
県内には、県女、前橋工科大学、高崎経済大学の三つの公立大学があります。現在、この三大学で、教育・研究・地域貢献において連携していくという話し合いが持たれています。具体的には、単位互換制度、公開講座や大学説明会の合同開催、地域活性化のための研究プロジェクトが提案されています。
- ③ 教育の充実
平成十五年度から学生の海外留学派遣制度が始まりました。海外で語学研修をする学生に対し、旅費と授業料の一部補助があります。初年度は、六十人の短期留学生に対し一人当たり上限二十万円、十五人の長期留学生に対し一人当たり上限四十万円が助成されます。大学では、アメリカ、イギリス、中国の大学などを斡旋していますが、それ以外の学校を選ぶこともできます。

・新学部開設を念頭におき、国際社会で活躍できる学生を育てようと、英語力向上のための授業が拡大しました。ネイティブによるカリキュラムが増え、夏季・冬季休業中

には英会話の集中講義が盛りだくさん予定されています。

・インターンシップやボランティア活動が単位認定されるようになりました。
・平成十三年度より編入生の受け入れが始まりました。また、平成十五年度には、正規入学の留学生二名を含め、六名の留学生が学んでいます。

● 今後の行事予定

錦野祭 十一月八日（土）～九日（日）
公開講座 今年も、県庁会場と女子大会場があります。詳細は別紙を参照してください。

秋の庭の見える
研究室を後にして…



渡邊 正彦

定年引退して一ヶ月余経過した。予想と違って、毎日は慌ただしく過ぎ去っている。あれも、これも、と心づもりした引退後の計画も遅々としてはかどらない。研究室から持ち帰った私物の書籍や書類の詰まったダンボール数個も家の中で積み重なり、車にも満載のまま、倉庫と化している。研究室の整理も四月三日までかかってしまった。元教員が新年度の最初の教授会の日に、研究室の整理で学内をうろちうろちして、教授会に出かける教員の方々と顔を合わせるのには恥ずかしくなかった。それでも、大学院OBが駆けつけてくださり、現院生や助手の市川さんらが手伝ってくださったおかげで、何とか整理は完了した。研究室は急に広くなった。カギを返してしまおうと、二三年間朝から晩まで自分の居場所として親しんだ研究室が、全く無関係なよそよそしい空間になってしまったことが

実感されて、なんとなく淋しい。この研究室から開学以来二五〇人の学部生と八人の院生が巣立った。卒論・修論指導は三年生、四年生、院生ともそれぞれ毎週一回、人数が多い時は二回行った。夏の二泊三日の合宿や春休みの二日間朝から晩までの「ひねもすゼミ」。時には深夜までの指導。モノとしては、返還請求して来ない分厚い卒論・修論（修論は返還していない）が研究室の書棚に金文字まぶしい背中を見せて残っているだけだから、わが膨大な時間と努力と精神的エネルギーの堆積はどこへ消えてしまったのかと空しい思いがするが、ここで学んだ人々の心や精神、知識として、おそらくそれほど意識しないであろうが、眼には見えないかたちで残り、生き続け、子や孫、あるいは、何らかの機会に接触した人々に伝わって行くものとして自からを慰めるほかはあるまい。

昨年の八月に、わが研究室を巣立った人々と渡邊ゼミの会を持って頂いた。すでに、八年前に一度やって頂いている。年月を経て、再び顔を合わせると、さまざまな思い出がよみがえってなつかしく、こういう仕事を選んで幸せだったという気持ちになる。その会で、これで解散、後は同窓会にお任せする、あるいは、各期ごとの会にお招きいただければ、生きている限りは喜んで参上すると申し上げた。その際、記念品として高価な万年筆と旅行券を頂いた。四月の二週目に、その旅行券を使って、萩、博多、太宰府、高千穂に家人と旅行させて頂いた。博多では二日間、玉村町出身の作家倉田潮の父祖の地と家系を調査し、初対面の方々の協力も頂いて、予想した以上の成果があった。色々な挿話があるが、それは別の機会にお知らせしたい。当分は東海大学大学院で非常勤として働く予定です。二三年間の思い出は尽きない。幸せな時間であった。最後に感謝の言葉を申し上げたい。ありがとう。（五月二日記）

総会・懇親会

去る平成十四年十月十三日、ホテルメトロポリタン高崎において、第三回同窓会総会および懇親会が、盛大に行われました。

『旬花報』 ネーミング、デザイン 受賞者インタビュー

先に、皆様より募集しました同窓会会報のネーミングおよびデザインの受賞者の方の表彰式が、同窓会懇親会の席において行われました。



受賞した鈴木さん（右）と小山さん（左）

ネーミング作品受賞者 鈴木喜美さん（英文十二期）

- ①応募のきっかけ：同窓会だよりを見て、このようなものが届くのはうれしいと思つて応募しました。
- ②今の気持ち：まさか通るとは思わなかったので信じられない気持ちです。
- ③旬花報に望むこと：それを見て、同窓生との話すきっかけや話題になるといいですね。
- ④創作の苦勞：最初は形から、漢字三字が覚えやすいと考えました。〇〇報という風にしたくと決めて、後は子供を寝かせている時にひらめきました。
- ⑤ロゴデザインを見て：すごく楽しみにしていました。今日来て、こんなに素敵になつていてうれしいです。

ロゴデザイン作品受賞者 小山朝子さん（国文七期）

- ⑥大学のことを思い出すのは：学祭のことなど楽しかったことを思い出します。でも今も匂っていたいと思います。
- ⑦大学との関わり：玉村に住んでいるので、娘が女子大にどんぐりを拾いに来ています。
- ⑧副賞の遣いみちは：副賞も魅力があります。娘の図書券として役立っています。
- ⑨学生のみなさんに望むこと：いい友人、いい縁と本業の勉強に励んで下さい。

- ①応募のきっかけ：神山先生よりお聞きして、お役に立てばという気持ちで応募しました。
- ②今の気持ち：これから使っていただけだと思うと、とてもうれしいです。
- ③旬花報に望むこと：卒業生の様子や学生の

様子を知りたいです。アンケートなどもいいですね。遠くで大学に来られない方たちの様子も知りたいです。

④作品のイメージ：桜の花びら。毎日花盛り。大学の校舎の色。

⑤創作の苦勞：花びらは早く決まったが、その先に時間がかかりました。国文出身ですが、デザインが好きで、パソコンに向かって、誰にも見せずに作りました。

⑥副賞の遣いみちは：母に本を買ってあげたいです。

⑦大学との関わり：仕事の関係で玉村に行くので、大学は身近にある感じですよ。

⑧作品に色をつけるとしたら：白黒ですが、つけるとしたらピンクです。

⑨学生のみなさんに望むこと：県女のカラーは変化しているけれど、毎日花盛りを目指して下さい。

出席された先生からのコメント

松本鶴雄先生から

同窓会懇親会の感想

大変になごやかで楽しい会でした

同窓生に対して一言

自分の限界を早く決めるな！

出席した同窓生のコメント

●二期は出席者が少なかったので、反省。もっと声をかけて、同窓会を盛り上げたいと思います。委員の皆様ご苦勞様でした。

国文二期 目崎 郁代

●久々になつかしい先生方や、同窓生にお会

司会を務めてくださった現在アナウンサーとして活躍中の高橋典子さん（英文八期）



いし、学生時代を思い出すことができました。先生方もお変わりなくお元気で、また同窓生たちもそれぞれの世界で活躍しているようでとても光り輝いていました。このような場を設定していただき、関係者の方々、本当にありがとうございました。

英文三期 仁井登美子・小淵日登美

●会場がホテルの同窓会というのは華やかな雰囲気楽しく、子供を連れて出席できるのがよかったです。かたくりしい感じは全くなく、とても楽しめましたので、もっとみんなに参加してもらいたいです。

美学三期 山田・川口

●もう少し日程が後の方が出席しやすいかもしれません。学生時代から遠くきてしまいましたが、若い日に戻ったような気がして楽しかったです。各学科の先生方が出席してくださるということがわかっていてと会いたい方が集まるのでは？ まだまだこれからの発展が期待されます。

美学四期 牧原 徳子

●明るい感じで料理もおいしく、よかったです



つたです。みなさん学生時代の面影がそのまま、いきいきしています。会場が高崎になったのも遠方からいらつしやる方にとつてはよかったのではないのでしょうか。英文七期生のみなさん！ぜひ来年は同窓会にきてくださいね。楽しくおしゃべりして盛り上がりましょう。

英文七期 矢内 久美

初めて同窓会に参加させていただきました。役員のみなさん、素敵な会をありがとうございました。次回はもつとたくさんの旧友に会えることを楽しみにしています。

英文七期 高橋美由貴

スタッフの方々、心温まる時間をありがとうございました。総会も含め、もつとたくさんの人が参加してくれたらいいのにとおもいます。そのために、講演会などの企画と抱き合わせるなど考えられないでしょうか？遠くから来る楽しみになるかと思えます。今日のご苦労様でした。幹事とは名ばかりで、今年是人集めができませんでした。楽しい一時でした。

英文八期 杉目麻希子・菅沼浩子

す。スタッフとしてもあまり苦労するとう感じが無く、今後このホテルでの開催が望ましいと思います。遠くから友達も呼びたいので、二〜三年に一回というのがいいかと思えます。(料理とケーキの割合はケーキをもう少し多めがいいです。)

英文五期 渡邊 生子

懐かしい人達を交えての食事会楽しかったです。美学の人の出席率って悪いんですね。今度声かけときます。

美学五期 黒澤さつき

●食事おいしかったです。場所もわかりやすくよかったです。もつとたくさんの人が参加できると盛り上がりたかと思えます。

国文六期 狩野 真純

●懐かしい友人に久しぶりに会えてうれし

つまでも心は奥女生のままで：日々の生活をこなしていきたいと思います。

英文八期 高橋 典子

●スタッフの皆さま、楽しい時間をありがとうございました。「ホテル」でありながら、アットホームな雰囲気よかったです。

国文九期 吉田由里子

●お疲れ様です。お料理もたくさんあってとても華やかな会になったと思います。もつとたくさん集まれる会として続いていくことを願います。

国文十期 野村千賀子

●大学を会場とする集まりもなつかしくて良いのですが、今回のような会場で行うのも交通の手段に困らないので、良いと思います。

国文十期 押見佐智子

●こんなことでもなければ、同窓生と顔を会わせるのは、冠婚葬祭となつてしまつて久しいこの頃、もつとたくさんの顔に会いたいと思いました。次回もこのような形の開催となることを心より望んでおります。名札に期を書くこと良いと思います。

国文十期 今井 一江

●先生を囲んでの和やかな会だったと思います。個々の都合で出席できない方々も多く、同期の顔が見えないのが残念ではありますが、先輩方とお話できる貴重な機会です。役員の方々、本当にありがとうございました。

国文十一期 小池 明子

●初めて出席させていただきました。懐かしい先生方にお会いできてうれしかったです。まだまだ人数が少ないですね。もう少し出席率が上がるとういいますね。

英文十二期 長岡真由美

キッズルームを利用された 方々の感想

●キッズルームが無ければ、今回の参加はなかったと思いますので、有難かったです。ビデオとか見たり、風船で遊んでいたのので、親はゆつくりと友人と語り合えました。また、設置してください。(四歳)

●行つたり来たりできてよいです。おかげで、ゆつくり話したり食べたりできます。キッズルームからホールを通らなければ廊下に出られないのもよかったです。(心配が無くて：)

●すぐ近くにいるので子も親も安心でした。やつぱりあつたほうがいいのかと。でももつと小さい子だと、専門の保育さんがないと無理かなと。(二六歳・四歳)

※(一)内は、利用したお子さんの年齢です。



▲キッズルームで遊ぶ子供たち

近況報告

※お名前については、イニシャルとさせていただきますました。また、紙面の都合上、お寄せいただいた全員の方について載せることができません、また一部抜粋とさせていただきます。ご了承ください。

懇親会に残念ながら出席できなかった皆様からの近況をご報告します。今年是非ご参加いただき、お会いできることを楽しみにしています。

●大学に関しては、様々な情報が飛び交っていますが、誇りに思えるような母校であり続けることを願っています。

〈国文三期 Mさん〉

●「旬花報」音がとてもいいですね。ひらがなも愛らしくていいと思います。

〈国文四期 Nさん〉

※注：ほか、同様の意見を多数いただきました。広報委員

●旦那が大阪へ長期出張に行つてしまい、二人の子供と寂しい！毎日。来年はまた参加したいです。

〈国文六期 Sさん〉

●(平成十四年)三月二十三日に男の子を出産しました。育児は思っていた以上に大変ですが、子どもはやっぱりかわいくて、授かることができてよかったと思つています。

〈国文四期 Sさん〉

●図書館のお仕事の他に、ホームヘルパーにも携わるようになりました。(総会の)翌週の趣味でやっているダンスの大会に向け、練習中です。

〈国文一期 Nさん〉

●子育て支援サークル「スマイルママの会」では毎月講演会&個人相談(無料)を行っています。

〈国文八期 Tさん〉

●近いうちに、是非、同窓会に参加したいと思ひますが、三人の子育てに追われ、なか

なか出かけられません。新居を構え、気分も新たに、子育ての合間に油絵を描いて、地方の芸術祭にチャレンジする日々です。

〈美学二期 Aさん〉

●二人の子供も大きくなったので、テニススクールに通い始め、体力作りをしています。

〈英文一期 Nさん〉

●家族でキャンプにはまつて六年目、毎年夏には海や山へ出かけています。また、今年にはPTAの役員や育成会の役員の仕事と子育てと仕事(中学校勤務)に充実した毎日です。

〈英文一期 Sさん〉

●学校週五日制の導入、小中学校の絶対評価をうけて入試の検討等、変わりゆく教育現場でとまどいながら奮闘しています。

〈英文二期 Gさん〉

●横浜市内の中学校で国際教室を受けもっています。外国籍の子供達に日本語を教えています。

〈英文七期 Kさん〉

●北群馬郡の中学校で教師をしています。柔道部担当に二年。来年は全国大会・北海道がんばるぞー。

〈英文六期 Kさん〉

●前橋南高校に勤務。県女の国文を受ける生徒の小論文指導などもしています。家族も皆元気で。長女中二、長男小五になりました。

した。

〈国文一期 Tさん〉

●イギリスに語学留学中です。来年はお土産話と一緒にぜひ参加させていただきます。

〈英文十七期 Sさん〉

●カルチャースクールの演劇講座発見。懐かしく参加。先生が、主婦でも参加できる劇団を持っていた。いつかは、やりたいな。

〈英文五期 Yさん〉

●先口、図書館を使用させていただきました。今後とも同窓生の使用をよろしく願ひします。

〈英文 Mさん〉

●通勤電車での読書が楽しみの毎日。遅ればせながら、「源氏物語」読破に挑戦中です。

〈国文三期 Iさん〉

●(平成十四年)五月から月一回、県女の公開講座(源氏物語を読む)を受講し、学生時代を懐かしんでいます。

〈国文六期 Iさん〉

●お世話になった先生方から...

(紙面の都合上、全員の方を掲載できず、申し訳ありません)

●青木 紀元先生

●今年八十八歳になりました。群馬での生活を折に触れては非常に懐かしく思い出します。利根川は群馬から流れ出て、私の居住地のすぐ近くをゆつたりと流れていきます。

●有川美亀男先生

●同窓会の御案内、有難く拝受いたしました。近いので出席したいのですが、病後療養中のため、失礼させていただきます。御盛会、御発展をお祈りいたします。

●水野 義一先生

●在職中からそうでしたが、体調がすぐれません。みなさんのお元気なお顔が拝見できないのは残念ですが、お許し下さい。盛

会を祈っています。

●岡本 隆雄先生

●奥羽大学文学部に専任教員として勤めながら、休日はテニスを楽しんでおります。また、ソバの栽培にも挑戦しています。総会のご盛況を念じております。

●島本 融先生

●OGは、三十路四十路の、夏すがたみのむしが、肩ぬいでいる、夕明かり

●村田 鈴子先生

●元気にしております。七十二才になっていますが、天職である大学の教師を続けております。全体の同窓会ができてよかったですと思っておりますが、教員が学生たちと同じ会員(特別会員)はいかがなものでしょうか? 結成の時お尋ねがなかったので、一言申し上げます。卒業生の教員はよくても、出身校の違う教員は奈良女子大の場合、客員として入つて頂いております。抵抗を覚えます。失礼!

●安盛 博先生

●御案内有難うございました。昨年は文化財の関係で県功労賞を授賞しました。皆様も各人郷土での活躍を祈ります。

●平岡 敏夫先生

●第三回同窓会、まことにおめでとうございます。在職中から同窓会の成立、発展を念じておりましただけに、大変うれしくなります。当日は都合で参上できませんが、現在、日本学術会議の文学・語学の委員長、また日大(芸術)大学院三コマ担当です。

平成13年度 会計報告

収入の部		支出の部	
前年度より繰越金	¥ 1,328,305	懇親会補助金	¥ 50,000
13年度分年会費	¥ 597,825	懇親会	¥ 63,000
13年度入学者入会金	¥ 424,000	・総会用看板代	
賛助会員入会金	¥ 6,000	事務用品	¥ 63,462
		封筒代(長型3号)	¥ 105,000
		(支出小計)	¥ 1,383,632)
		予備費	¥ 972,498
合 計	¥ 2,356,130	合 計	¥ 2,356,130

平成13年度 懇親会 会計報告

収入の部		支出の部	
本部会計より補助金	¥ 50,000	懇親会飲食費	¥ 111,114
懇親会費	¥ 99,000	テーブルフラワー	¥ 30,000
合 計	¥ 149,000	合 計	¥ 149,000

平成14年度 予算案

収入の部		支出の部	
前年度よりの繰越金	¥ 972,498	企画広報費	¥ 500,000
14年度分年会費	¥ 600,000	懇親会補助金	¥ 100,000
14年度学部入学者入会金	¥ 418,000	事務用品	¥ 60,000
14年度大学院入学者入会金	¥ 22,000	錦野印刷代(増刷分)	¥ 30,000
14年度編入学者入会金	¥ 6,000	郵便・郵送費	¥ 700,000
		振込手数料	¥ 32,000
		会議費	¥ 40,000
		(支出小計)	¥ 1,462,000)
		予備費	¥ 556,498
合 計	¥ 2,018,498	合 計	¥ 2,018,498

「卒業準備金 預かり制度」発足に伴う預かり金について

預かり金額	期	預けに来た人		預かった日	
¥ 88,527	17	国文学科	竹野あゆみ	2001. 3.18	通帳(群馬銀行 玉村支店) にて管理
¥ 70,000	13	国文学科	齋藤 恵	2001. 9.11	
¥ 98,916	18	美学美術史学科	野手 千歌	2001.11. 2	

平成13年度 活動報告

月 日	活動内容
13. 4.28	役員会議
5.26	第3回幹事会 総会準備委員会発足
6.10	役員・総会準備委員会議
8.11	年会費納入通知発送作業(役員・準備委員等)
9.30	役員・総会準備委員会議 総会・懇親会案内発送作業
10.20	役員会議
10.28	総会準備委員会議
11.10	平成13年度総会(錦野祭開催時・大学において)
12. 8	役員・総会準備委員会議 反省会
14. 1.13	役員・総会準備委員会議
3.17	役員会議・「錦野」発送作業
3.26	会長卒業式出席 入学記念品袋詰め作業

平成14年度 活動計画(案)

月 日	活動内容
14年 4月	役員会議 入学記念品贈呈
5月	第4回幹事会 総会準備委員会・広報委員会発足
6月	役員・総会準備委員会議 年会費納入通知発送
8月	役員・総会準備委員会議 広報ネーミング審査会 総会・懇親会案内発送
9月	役員・総会準備委員会議 広報委員会議
10月	役員・総会準備委員会議 広報タイトルロゴ審査会 平成14年度総会・懇親会
11月	役員・総会準備委員会議
12月	役員・広報委員会議 同窓会企画イベント
15年 3月	役員会議 「錦野」発送作業



▲総会終了後



▲総会での報告 嶋原さん

同窓会からの お知らせ

... information ...

メンバー募集 一緒にやりませんか？

同窓会の中には、懇親会実行委員会と広報委員会があります。
懇親会実行委員会は、年に一度の総会と共に開催される懇親会の企画・運営を担当しています。
広報委員会は、旬花報の編集・発行、HP作成・アップを担当しています。
年をおうごとに、各委員会の活動も充実してまいりました。同窓会の運営を盛り上げようと、仕事や家事をこなしながら、同窓会作業に取り組んでいます。在学時には経験することのできなかった、学年や学科を越えた交流を楽しみながらの作業です。
各委員会のメンバーは随時募集しています。一緒に活動して下さる方は、同窓会事務局までご連絡ください。

お知らせ

●HPの担当からは……
●現在は、最低でも、一ヶ月に一回の更新を
実行中！ 皆さん、ぜひ、のぞいて見てくだ
さいね。
また、HPで取り上げて欲しい特集やコー
ナーなどがございましたら、お気軽にご意見
をお寄せください。掲示板への書き込みもお
待ちしています。

旬花報の担当からは……

●旬花報の企画募集！
広報委員会では、「OGリレー連載」「先生
からのリレーメッセージ」「御退職の先生か
らのリレーメッセージ」などなど、今後の旬
花報企画を考えておりますが、会員のみなさ
まからも、名企画を募集いたします。同窓会
事務局内広報委員会まで、どしどしお寄せく
ださい。

「旬花報」第二号もお楽しみに!!!

私たち本部役員です

山田 祐子(副会長)
英文1期生です。同窓会のために少しだけ
お手伝いをさせて頂いています。そのおかげで
学生時代には全く縁の無かった方々と泣いた
り笑ったりもすることもあり、自宅や会社で
は得られない感動を得ることが出来ました。
これからもこの輪をどんどん広げていけたら
嬉しいですよ。

嶋原 章子(書記)

書記をつとめること4年間。同窓会の活動
は年齢を超えて先輩方と親しくなれたり、会
議のために女子大に訪れるときなど、学生以
来のアカデミックな気分になることができ
ちよつとした刺激になっています。皆さんも
活動に加わってみませんか？

一倉 晶子(書記)

英文学科9期生です。卒業してから早〇年
となりましたが、同窓会の活動に参加してい
ると気分は大学生。素晴らしい仲間と触れ合
える、貴重な時間を過ごしています。

新井小枝子(会 計)

国文学科8期生です。同窓会作業の魅力と
は……懐かしい同級生との再会、在学時代に
は出会うことのなかった先輩や後輩との交
流。大きな喜びと幸せをもたらします。これ
からもよろしくお願いいたします。

村上みさお(会 計)

美学美術史学科8期生です。卒業してから
10年以上経ちますが、毎年数回は大学へ足を
運ぶことに……。同窓会のお手伝いをしてい
なければ、こんなに堂々と大学に通うことも
ないんだなあ……。なんて考えてみたり。
(笑)結構楽しいかも!!!

小林 郁代(監 事)

国文学科の1期生です。同窓会ができて、
大学時代とはまた違う感じで、大学と触れ合
えて、嬉しいです。

杉木 佳子(監 事)

御世話になります。国文学科の1期生です。
懐かしい大学に時々足を運べることを嬉しく
感じております。

編集後記

「錦野」―戸澤先生の「ある」と
いう真実―を目にし感無量となり、
思わず金子みすずさんの詩が心に浮
かびました。題は、「星とたんぼぼ」。
星の星とたんぼぼの根を見つめ、見
えぬけれどもあるんだよ、見えぬも
のでもあるんだよ、と目に見えない
もの大切さを詠んでいます。そし
て、そう今私たちの取り組んでいる
事、なぜやるのか、なぜやらねば……、
なぜ私なのか、答えがそこにありま
した。判然としなない思いの中、大い
なる真実を見つけた喜び。すっきり
と空が晴れ渡る様によくよく分かっ
たんです。私の回りにいる人々は真
実を見窮める目を持つ信頼出来る
人、そして愛が深い人達ばかり、こ
うした人たちに囲まれて同窓会に関
われる幸せを、ほろりと感じる今日
この頃です。
学長始め原稿を寄せて下さった先
生方、会長、本当にご尽力頂きあり
がとうございました。お蔭様で初め
ての同窓会報を手にする事が出来、
感激一入です。第一期生という言葉
に少し紅潮した類、そこはかとない
うれしさ、二十年前のそれと同様の
喜びを、この「旬花報」に感じます。
このいとなみが永遠に続きます事を
願って止みません。

(広報委員長 狩野 順子)